

もうすぐ夏季休暇。最近、日本各地やその周辺で地震が頻発しているので、この休みの間に自分自身の防災対策について確認することにしたい。

わが家は東京郊外の中規模マンション。東京都から助成金をいただき、エレベーター用防災キャビネット、発電機、投光器、簡易トイレなどの防災備蓄資器材を購入し、「東京とどまるマンション」に登録している。マンションの正面に都からいただいたステッカーを貼っているのだが、大地震が発生した時、本当にマンションにとどまることができるのか、正直言つて不安

である。上水は確保できるのか、生活排水は流せるのか、まず心配である。マンホールトイレも購入したが、居住者全員が使用するには数が足りないよう気がする。汚物の置き場所も決めがする。汚物の置き場所も決めたが、すぐいっぱいになるに違いない。近隣への臭気も懸念される。

管理組合の総会で理事長とし

建設 論評

夏休みに防災を確認

て、私たちが住むマンションは建築基準法にのっとって設計されている「ので」、能登半島地震と同じような大地震が発生した場合、同じような被害があると説明しても、理解してもらうことは容易ではない。大手デベロッパーが分譲したマンションが被災すると考えられない方が多い。一人で住んでおられる後期高齢者も少なくないので、非常に備えて緊急連絡名簿を作成したが、個人情報の関係で居住者全員の情報は把握できていない。

また、大地震発生時には管理会社に連絡がつかなくなることが想定されるため、日頃メンテナンスでお世話になっている全ての協力会社の連絡先を整理した。大災害が発生した場合は連絡がつかないことや、すぐに復旧してもらえないことも覚悟し、自分たちで応急対応できるようにしておく必要があるだろうが、準備は全くできていない。

勤務時間中に被災した場合何日かオフィスに滞在することになるかもしれない。入居するビルも周辺のビルも超高層ビルで、全面ガラスカーテンウォールで覆われている。長周期地震で右に左に何倍も揺れた場所は多い。しばらくは餓死しなくて済みそうだが、停電して冷蔵庫は使えなくなるから生鮮食料品は食べられない。常備菓も準備しているが、長期化した場合は健康管理が心配である。

通勤時に大地震が発生した場合は非常に厳しいことになりそうだ。車両の窓は全てはめ殺しで開放できない。停電して換気が止まった場合、何時間車内にとどまることができるのだろう。危険を承知で線路を歩く人もいると思うが、ターミナル駅周辺は大混乱で、線路を出で街に避難することはおそらくでき

ない。

もし地震後に富士山が噴火したら、降灰のため物流は止まつて生活必需品が届かず、建築設備は作動しない。大規模停電も起こる。東京一極集中を悔やむだろうが、時すでに遅しか。

(誠)

